



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 マーベラスAQL

コード番号 7844 URL <http://www.maql.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 許田 周一

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 管理統括本部長 (氏名) 山角 信行

TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	7,904	181.0	1,105	—	1,021	—	645	—
24年3月期第2四半期	2,812	△38.4	30	△93.4	13	△97.0	7	△98.3

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 645百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 10百万円 (△97.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	1,206.84	—
24年3月期第2四半期	58.41	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	13,485	9,424	69.9	17,630.36
24年3月期	13,667	9,102	66.6	17,028.50

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 9,424百万円 24年3月期 9,102百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	605.00	605.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	1,000.00	1,000.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,500	77.5	2,200	110.6	2,130	107.8	1,290	△63.5	2,413.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	535,931 株	24年3月期	535,931 株
25年3月期2Q	1,380 株	24年3月期	1,380 株
25年3月期2Q	534,551 株	24年3月期2Q	122,000 株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)P. 3「1. (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
(5) セグメント情報等 .....	7
(6) 重要な後発事象 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、平成23年10月1日付で当社を存続会社とした吸収合併方式により、株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアと合併いたしました。また、合併に伴い、報告セグメントも「オンライン事業」「コンシューマ事業」「音楽映像事業」の3事業に変更いたしました。

したがって、前年同期との比較において前提条件が大きく異なることから比較数値は表示しておりません。

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当社グループが属するエンターテインメント業界は、ソーシャルゲームの市場規模が依然急成長を続けており、広義のオンラインゲーム市場の規模は平成23年（平成23年1月～12月）で約4,200億円に達しています（社団法人日本オンラインゲーム協会調べ）。家庭用ゲーム市場におきましては、ニンテンドー3DSが市場の活況を支え、平成24年度上期（平成24年4月～9月）の市場規模がハード・ソフト合計で前年同期比106.6%となり、上期としては6年ぶりのプラスに転じております（株式会社エンターブレイン調べ）。また、音楽・映像分野では、シングルCD市場の活況やブルーレイ市場の継続成長等、市場環境が厳しい中にも明るい兆しが見えてきております。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPを中核としたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）の業績は、売上高7,904百万円、営業利益1,105百万円、経常利益1,021百万円、四半期純利益645百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ①オンライン事業

当事業におきましては、「ブラウザ三国志」、「ブラウザプロ野球」、「剣と魔法のログレス」、「ブラウザ三国志モバイル」、「牧場物語モバイル」等の既存主力タイトルが引き続き好調に推移し収益に貢献いたしました。また、アライアンス戦略やマルチ展開を積極推進し、当第1四半期にリリースした3タイトルに加えて、新たに平成24年7月よりオンラインパチンコ・パチスロホール「マルハンドリームネット」、平成24年8月よりスーパークリエーターズシリーズ第1弾「ノーモア★ヒーローズワールドランカー」と第2弾「コンボキマール」、9月より同第3弾「J. J. ROCKETS」のサービスを開始いたしました。一方で、一部不採算タイトルのサービス中止を決定したほか、開発中の一部タイトルの中止費用及び海外向けタイトルの投資損失を計上いたしました。

これらの結果、売上高は3,331百万円、セグメント利益は460百万円となりました。

#### ②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門におきましては、平成24年7月に発売した「ルーンファクトリー4（ニンテンドー3DS）」及び平成24年8月に発売した「閃乱カグラ Burst -紅蓮の少女達-（ニンテンドー3DS）」が、それぞれ同シリーズの前作実績を上回る好調なセールスを記録しました。また、平成24年6月より当社初のPS Vita向けダウンロード専売タイトル「アサルトガンナーズ」をリリースしたほか、前期（平成24年2月）に発売した「牧場物語 はじまりの大地（ニンテンドー3DS）」を中心にリピート受注が好調に推移いたしました。受託開発部門におきましては、ソニー・コンピュータ・エンタテインメントの「SOUL SACRIFICE (PS Vita)」の大型受注をはじめ、順調に進捗いたしました。アミューズメント部門につきましては、平成24年7月よりキッズアミューズメント筐体の新作「ポケモンレッタ」をリリースし、稼働開始から好調な販売が続く中、第3四半期に販売予定であった新弾を一部前倒しで販売いたしました。

これらの結果、売上高は3,110百万円、セグメント利益は745百万円となりました。

#### ③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、平成24年7月より新作テレビアニメ「人類は衰退しました」の放映を開始したほか、新たにテレビアニメ「スマイルプリキュア！」や「映画プリキュアオールスターズNewStage みらいのともだち」等の音楽・映像商品化を行いました。また、音楽配信収入や旧作商品の受注が堅調に推移いたしました。ステージ制作部門におきましては、「ミュージカル『テニスの王子様』」において合計41公演分の実績を計上したほか、新規イベントとして「ミュージカル『テニスの王子様』春の大運動会2012」を開催し大きな話題を呼びました。また、新たに関連DVDを4作品発売し、受注が好調に推移いたしました。そのほか、新たな舞台公演作品として、人気ゲームを原作とした「ミュージカル『薄桜鬼』斎藤一篇」を開催し、観客動員及びDVD販売ともに順調に推移しました。

これらの結果、売上高は1,462百万円、セグメント利益は344百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、資産13,485百万円（前連結会計年度末比181百万円減）、負債4,061百万円（前連結会計年度末比503百万円減）、純資産9,424百万円（前連結会計年度末比321百万円増）となりました。

（流動資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、現金及び預金の減少等により10,986百万円となり、前連結会計年度末に比べ946百万円減少いたしました。

（固定資産）

当第2四半期連結会計期間末における固定資産は、新たな設備投資による有形固定資産の増加、開発タイトルの増加に伴う無形固定資産の増加等により2,499百万円となり、前連結会計年度末に比べ764百万円増加いたしました。

（流動負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、短期借入金の返済等により3,956百万円となり、前連結会計年度末に比べ404百万円減少いたしました。

（固定負債）

当第2四半期連結会計期間末における固定負債は、長期借入金の返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替等により104百万円となり、前連結会計年度末に比べ98百万円減少いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の累積が前連結会計年度末の配当による剰余金の減少を上回った結果、9,424百万円となり、前連結会計年度末に比べ321百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、コンシューマ事業における新作ソフトの受注が計画を上回り推移したことや「ポケモントレッタ」の好稼働による販売計画の前倒しを主因として、第2四半期連結累計期間においては、売上・利益ともに業績予想を上回る実績を計上することができました。一方で、通期の連結業績予想につきましては、下半期に複数の新規タイトルのリリースを予定しており、特にオンライン事業におけるそれらの業績推移を慎重に見極める必要があること等から、当初予想を据え置いております。

詳細につきましては、平成24年10月19日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、新たに設立したMAQL Europe Limitedを連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ11,814千円増加しております。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,179,272	6,000,298
受取手形及び売掛金	2,520,681	2,774,011
有価証券	280,371	176,181
たな卸資産	904,939	970,321
その他	1,070,421	1,101,364
貸倒引当金	△23,193	△36,074
流動資産合計	11,932,492	10,986,102
固定資産		
有形固定資産	332,698	730,477
無形固定資産	733,400	1,152,973
投資その他の資産	764,162	706,134
貸倒引当金	△95,561	△89,977
固定資産合計	1,734,699	2,499,606
資産合計	13,667,191	13,485,709
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	609,087	726,194
短期借入金	1,107,491	563,785
1年内返済予定の長期借入金	73,200	146,400
未払印税	934,294	805,988
未払法人税等	33,663	393,221
引当金	74,265	32,722
その他	1,529,652	1,288,429
流動負債合計	4,361,653	3,956,742
固定負債		
長期借入金	202,400	92,600
資産除去債務	—	12,040
その他	538	—
固定負債合計	202,938	104,640
負債合計	4,564,592	4,061,382
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	6,373,514	6,373,514
利益剰余金	1,630,975	1,952,690
自己株式	△27,726	△27,726
株主資本合計	9,105,236	9,426,951
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	298	103
為替換算調整勘定	△2,935	△2,728
その他の包括利益累計額合計	△2,637	△2,625
純資産合計	9,102,599	9,424,326
負債純資産合計	13,667,191	13,485,709

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,812,478	7,904,252
売上原価	2,056,941	4,101,322
売上総利益	755,536	3,802,930
販売費及び一般管理費	724,845	2,697,836
営業利益	30,690	1,105,093
営業外収益		
受取利息	44	3,155
受取手数料	1,901	—
その他	3,377	2,140
営業外収益合計	5,323	5,295
営業外費用		
支払利息	20,492	7,100
為替差損	2,489	14,197
持分法による投資損失	—	67,139
その他	11	818
営業外費用合計	22,993	89,255
経常利益	13,020	1,021,133
特別利益	—	—
特別損失		
関係会社株式売却損	3,103	—
特別損失合計	3,103	—
税金等調整前四半期純利益	9,916	1,021,133
法人税等	2,791	376,014
少数株主損益調整前四半期純利益	7,125	645,118
少数株主利益	—	—
四半期純利益	7,125	645,118
少数株主利益	—	—
少数株主損益調整前四半期純利益	7,125	645,118
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△194
為替換算調整勘定	3,506	1,917
持分法適用会社に対する持分相当額	—	△1,710
その他の包括利益合計	3,506	12
四半期包括利益	10,632	645,130
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,632	645,130
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等  
(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	音楽映像 事業	デジタル コンテンツ 事業	舞台公演 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,186,444	1,388,693	237,340	2,812,478	—	2,812,478
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,186,444	1,388,693	237,340	2,812,478	—	2,812,478
セグメント利益又は損失(△)	346,482	21,726	△66,378	301,830	△271,140	30,690

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△271,140千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,331,895	3,110,179	1,462,177	7,904,252	—	7,904,252
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	237	237	△237	—
計	3,331,895	3,110,179	1,462,414	7,904,489	△237	7,904,252
セグメント利益	460,557	745,095	344,733	1,550,386	△445,292	1,105,093

(注) 1 セグメント利益の調整額△445,292千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

## (報告セグメントの変更)

当社は、平成23年10月1日付で株式会社AQインタラクティブ及び株式会社ライブウェアと合併いたしました。これに伴い、事業区分を見直した結果、前第3四半期連結会計期間より報告セグメントを「オンライン事業」、「コンシューマ事業」、「音楽映像事業」に変更いたしました。

「オンライン事業」においては、SNS向けソーシャルゲームを中心としたオンラインゲームやゲームアプリケーションの企画・開発・サービス運営を行っており、フィーチャーフォン、スマートフォン、PC等の多様なデバイスに向けてコンテンツを供給しています。

「コンシューマ事業」においては、当社が発売元となる家庭用ゲーム機向けソフトの企画・開発・販売を行うほか、蓄積された高度な開発技術を背景に、業界他社が発売するゲームソフトの開発受託を行っています。加えて、アミューズメント施設運営会社向けに、業務用機器や商品の企画・開発・販売を行っています。

「音楽映像事業」においては、アニメーションを中心とした音楽・映像コンテンツの制作・プロデュースを行い、音楽・映像商品化から、配信ビジネスやキャラクター商品化といった二次利用へのマルチユース展開を積極的に行っています。加えて、漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした舞台興行作品の制作・プロデュースにより興行ビジネスを手掛け、ライブエンターテインメントと音楽・映像との融合を図り、コンテンツの多面的な展開を推進しています。

なお、当該変更を反映した前第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報は、以下のとおりです。

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額(注) 2
	オンライン事業	コンシューマ事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	173,492	1,215,201	1,423,784	2,812,478	—	2,812,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	173,492	1,215,201	1,423,784	2,812,478	—	2,812,478
セグメント利益又は損失(△)	△199,248	220,975	280,103	301,830	△271,140	30,690

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△271,140千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更に伴い、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益が、それぞれ「オンライン事業」で60千円、「コンシューマ事業」で11,388千円、「音楽映像事業」で0千円増加し、報告セグメントに帰属しないセグメント利益の調整額が、365千円減少いたしました。

## (6) 重要な後発事象

該当事項はありません。